

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873400378		
法人名	有限会社 凜成		
事業所名	グループホームひだまりの家	ユニット名(1階)	
所在地	〒313-0106 茨城県常陸太田市下利員町1086-1		
自己評価作成日	令和4年2月16日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームひだまりの家の駐車場の周りには木々が茂り季節ごとに桜や山藤が咲いたり土手の上には水仙が花を咲かせ柿やみかんの実を愛でることが出来る環境にあります。現在もコロナ禍の影響で地域の方々との交流や集まりの機会を持つことが出来ず外部との接触が少ない現状です。ただし、感染者が減少している時期にはご家族との面会を蜜にならない様感染予防に努め、再会して顔や声を聞ける喜びを感じる事が出来ました。何よりスタッフが感染させない様に生活の制限を各自、自覚しながら入居者様に日々接してくれている事に感謝です。制限の中でも入居者様と共に話しを楽しみ笑い歌って過ごす日々を送っていますが、高齢の入居者様は食欲があり「美味しかったよ」と声を掛けてくれるのが何より嬉しい限りです。体調の管理は看護師と管理者の連携でスタッフへの申し送りで共有する事が出来安心して対応できています。毎月の行事の催し物はレクリエーション担当が中心になり盛り上げてくれるので入居者様と一緒に楽しい時間を共有出来ます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和4年3月25日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	有限会社凜成の掲げている理念と事業所で作成した理念を毎朝の朝礼時に唱和し皆で共有し実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2年以上コロナ感染症の終息がなく、毎年恒例の秋祭りも中止で施設への出入りも制限しているので残念ですが今の所地域との交流は避けています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同じ様にコロナ禍なので認知症の理解を地域の人達に広めて活動したい事が出来ていません。施設のスタッフに新規入所の方の認知症の理解や進行している入所者様の症状は共有して貰っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会は開催出来ていませんが、2ヶ月に1回各施設で行った行事報告や写真を載せて通信を作成し今後の行事や現在の入居状況も入れて役員の方々や市役所に送付し情報の共有を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍ですが市の担当者の方に空床時の情報提供やワクチン接種に関する情報を確認したり連絡を取り合ったりしている。又、主任ケアマネ会でケアプラン点検を行い情報提供や共有をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修で年に4回研修を行う規定があるので、身体拘束についての研修を出来るだけミーティング時に取り入れてスタッフに再度確認して貰ったり、現場で当てはまる事がないか話している。また虐待についての研修も入れている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時や朝礼時に研修の一環も兼ねて、普段現場で行っている事の確認やどの様なことが虐待に繋がるのかスタッフに確認、周知して貰い注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在日常生活自立支援事業の利用者は居ないが今後利用するかもしれないので、成年後見制度の仕組みや内容についてと共に最低限の知識を現スタッフに理解して貰えるよう呼びかけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書に沿って契約時には伝えておきたい箇所の説明(補足)を行い、ご家族に納得を頂いて判を押して貰っている。不明点に関してはご家族から電話等もあるので分かり易く説明をして納得して貰っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在面会時(離れての)や電話の中で施設入所後の家族の思いや雰囲気、スタッフの言葉かけや対応について、意見や要望を聞き取ることがある。また意見箱を玄関に設置しているが今のところ利用はない。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング開催時や朝礼の中での話題を通して意見を出して貰ったり、管理者が個別に率直な意見や要望、提案を聞き出している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	コロナ禍があり集まったのスタッフ表彰は無い。時給のアップはあった。有給休暇も勤務日数や勤務時間に応じて取得しとるように話している。年度初めに個々人が社長と面接を行い要望を伝えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で蜜になることを控えている為余り研修は出来ていない。その為人数を控えて食に関する研修をDVDを見て実施してみた。今後も引き続き行う予定。リモート研修も実施している。参考になる資料があればスタッフに渡している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為常陸太田市の連絡協議会が機能していない。暫く他施設との意見交換も出来ていない。ただ施設から施設への入所者の移動の検討をお願いしたい旨の連絡はあった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に出来るだけ実調して顔つなぎや生活歴を聞き出しご本人が環境の変化に少しづつ馴染むまで時間をかけて関わり、入所時には聞き逃した事や家族の要望等に時間をかけてその後の参考にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に至った今までの経過を尋ねたり昔の生活歴を参考にし、聞き取りを重ねながらご本人にとって落ち着いて住みやすい場所になるように関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時にご本人との会話の中から気持ちを汲み取り、ご家族が今後希望することや要望から思いをくみ取って(既往歴や現在の疾患を確認しながら)より良いサービスを提供出来る様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	身体介護だけでなく普段の会話だったり言葉掛け等でご本人に寄り添いながら、共に日常が送れる様に仕事に取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一時期離れての面会が少し出来てはいたが直接会って話す事が難しくなったので、定期的に電話で現在の状態や状況の説明を行い情報を共有している。必要な物や状態に変化があればご家族に相談、報告をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でなければご本人のご家族や兄弟姉妹、友人の方々と面会して話しをしたり、希望すれば家族と外出や外食等が出来るのですが今の状況では支援出来ていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	朝の挨拶から始まり顔色や体調を尋ねたり、話しの出来ないご利用者様は状態を観察して関わりを持っている。ある時は話しに耳を傾け要望や訴えを聴いてご利用者様が孤立しない様に関わり、時には間に入り話しをしながら関係性を考えて場を和ませている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族から相談を受けたりする時もあるので、関係性を大事にしている。また、様々な面で繋がり合えるよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の立場になり個々人の思いに添える様に日々介護を行っている。各スタッフは日常生活で呟いたことや体調等に変化があれば記録し、皆で共有していく様に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の実調時、情報収集を行いその後入所時にも気が付いた事や分からない所を聞いて生活歴の流れを把握し、出来ればスタッフへの情報共有を入所前に出来る様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各入居者様の一日の過ごし方を見直す事や看護師と情報を共有し伝えたい事があれば申し送り帳を活用し、ミーティング時や朝礼時等に今後の関わり方や対応の仕方を話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	まめに足を運ぶご家族からは口頭で状態や病状の報告をして思いの共有をし、ご本人が暮らしやすいための課題を管理者や看護師スタッフで話し合い、皆が共有する事でケアプランに繋げている。モニタリングは必ず実施し後のプランに活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録がiPad入力に変わり入居者様の情報共有は朝の朝礼時やミーティング時に行っている。受診後の結果や家族からの情報提供、変更事項は申し送り帳にも書いておき介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の高齢化に伴い心身の重度化が挙げられ看取り対応に取り組んでいる。普段から主治医や看護師との対話を心掛け施設看護師と情報共有し早めの話し合いをご家族、主治医、施設で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周辺は緑が豊かで空気も澄んで静かな環境です。暖かい過ごしやすい時間帯には玄関から駐車場付近で日向ぼっこをして日光浴を楽しんだり、お茶を飲んだり、歌を歌って軽い体操も取り入れて行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者に合った医療を受けられるように入所時にご家族と話し合い、施設の主治医の説明もして、その後のかかりつけ医を決めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃より看護師が利用者の健康状態を確認し、その上で介護スタッフが変化や気づいたことがあれば看護師に報告して情報を共有している。ご利用者様に合った医療を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ禍で面会が出来ない為入退院になった時は、看護師や管理者が状態の経過の方を病院に連絡して聞いたり、ご家族に連絡があったのか確認の電話を入れたりしている。その上で医療機関と連携をとり病院によってはケースワーカーと連絡調整や確認をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者様の嚥下状態や心身の状態を考慮しながらその都度ご家族と話しをして重度化時の終末期の確認をして看取り対応とし、今まで看取りを何人も行ってきている。ご家族に同意書を貰い主治医からも話しをして貰い同意のもとで支援に繋げている。スタッフの看取りに対する認識も出ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍になり年2回実施しなければならない避難訓練が1回しか出来ない年もあった。地震想定での避難訓練が実施出来なかったけれど災害時や、急変時の対応をミーティング時に再確認や話し合うことは出来ている。春に2回目の避難訓練を行う予定である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍の前は地元住民や消防団に参加をお願いして避難訓練が出来ていたが、コロナ禍になり訓練の実施は出来ていない。今後色々な災害に備えた実施案を作成しスタッフと共有していく予定。備蓄品の管理をし賞味期限を確認、処分、追加していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の人格を尊重し敬いながら対応している。個人情報に関する書類は花あかりの事務室の鍵の掛かる書棚に保管し、ご本人のファイルも目につかない様にカーテンで目隠しをして保管をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より各ご利用者様に言葉掛けをし、ご本人の思いや不安、心配事等がないか話しをする中で聞き出せる様に心掛け働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様一人一人がストレスを溜めないで穏やかに一日を過ごせる様にまた不安にならない様にご利用者様の体調や訴えを聞いてスタッフが支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の朝の整容に気を使い汚れがあれば衣類の交換を行い、受診の外出時には身だしなみに気をつけて対応している。ご本人が少しでも生き生きと生活出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1階のご利用者様は殆ど車椅子使用で身体介護の必要な方が多いので食事の準備や片付けは出来ていない。しかし日頃から好きな食べ物を聞いたり、何が食べたいか聞いて食事のメニューに反映させて食べる楽しみを持って貰っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様各自の食事を食べた量や飲めた水分量(お茶やコーヒー、ジュース等)をiPadに記録しスタッフ間で把握している。食事量や水分量が足りない方は食べられる物(食べやすい物)や好みの飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご利用者様全員が洗面所や居室で口腔ケアを実施し、口腔内の清潔を保てるようにスタッフが声掛けの支援をしている。入れ歯のご利用者様は夕食後入れ歯洗浄剤を入れて朝の口腔時に戻している方が何名かいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	スタッフはご利用者様一人一人の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。トイレでの立位が困難になりつつある入居者様には二人対応で様子を見ながら筋力低下や認知症の進行も考慮して居室対応も状況に応じて行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を参考にして各入居者様の排便の状況を把握し便秘がちな方には定時薬を処方して貰いそれでも便秘がちな方には看護師が肛門付近をマッサージしたり、摘便や洗腸をして排便させている。食事前の体操時マッサージしたり水分を多めに摂って貰っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在もスタッフ不足やご利用者様の重度化傾向もあり、入浴支援が出来ない日が多い傾向である。それでも出来るだけ入浴を楽しんで気持ち良く過ごして頂くために、スタッフが協力して入れたり、時には季節感が感じられるように菖蒲湯やゆず湯を計画してお風呂を楽しんで貰っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日昼食後には各居室で静養する時間がありご利用者様はくつろいで休む事が出来る。また、片側のホールには畳があり乾いた洗濯物をご利用者様と一緒に話しをしながら畳むこともある。(くつろげる場所)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については看護師(管理者)が各入居者様の把握をしており、薬の変更や中止、追加があった場合には申し送りのノートでスタッフが分かる様に(情報共有を)している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月必ずレクリエーション担当のもとで、誕生会や季節の行事を行い該当者がいない時はカラオケをしたり絵本の読み聞かせや若い頃の話をして過ごして頂いている。エプロンやハンドタオル、衣類を声掛けすると毎日畳んでくれるご利用者様もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の支援には以前から力を入れてきたが、ご利用者様の全体的な高齢化と認知症の進行による心身機能の低下、猛暑や寒さ今はコロナ禍で遠出も近所も出掛ける事が出来ない。おさまってきたら近場でも楽しんで貰える様に気候が良い暖かい時期の外出を計画したい。外泊を希望しているご利用者様もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所で管理者が預かることにしている。しかしご本人の希望により小銭入れの財布を持っている入居者様はいるが使うことはないし家族も了解している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入所時から携帯電話を持ち込んでいる入居者様がいて時々娘さん方と連絡をとっている。他に娘さんと話がしたい訴えがある時は電話を繋いで話しをして貰い随時連絡をとれるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関付近にテーブルや椅子、季節の花々を置き面会に使用しているがコロナ禍で今は制限をしている。入口の玄関にも季節の花々、ホールにはご利用者様とスタッフ共同による手作りカレンダーや壁に季節を思わせる飾り物を貼ったりして季節感を感じられるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階の入居者様はホールでずっと過ごす方やお茶を飲んでから居室に戻り休んだりする方、部屋で衣類の整理をしたり雑誌を見たり自由なことをしている方もいる。廊下付近で車椅子に乗り話しが盛り上がり過ごすこともある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際にご家族に馴染みの物を持って来て頂いている。使い慣れた家具や布団、毛布類を持って来ている。以前仏壇の持ち込みがあったが今は夫の写真や家族の写真を飾っている入居者様が何人かいる。居室でも快適に過ごせる様に本人本位で過ごして頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のドアには鍵がついていないので出入りが自由に出来る。1階のご利用者様は殆ど車椅子使用で、移動時に妨げにならない様に配慮している。ホールでもくつろげる様に座る配置を状況に応じて変えている。		